

Title	I デンマーク語音のカナ転記
Author(s)	間瀬, 英夫
Citation	デンマーク語固有名詞カナ表記小辞典. 2009, p. 1-19
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/71025">https://hdl.handle.net/11094/71025</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## I デンマーク語音のカナ転記<sup>1</sup>

デンマーク語の発音形は *Den Store Danske Udtaleordbog* (Munksgaard. 1991; 以下では SDU と略す) の第 1 発音形, すなわち「明瞭形」(distinkthedsform) を基準とする。(この明瞭形と比較するために, 第 3 (発音) 形 (ukomenteret form efter hovedformen) に言及することがある。これについての詳細は, 間瀬英夫「デンマーク語音表記のための音声記号」『デンマーク語学ハンドブック』. 2005 (以下, 「ハンドブック」と呼ぶ))。また, 別の発音辞典 Peter Molbæk Hansen. *Dansk Udtale*. (Gyldendal. 1990) も参考にした (参考文献参照)。

本書で用いる音声記号は SDU のそれと一部異なる。また, SDU の記号はイタリック体であるが, 本書ではローマン体で表記する。本書の音声記号は「改良ダニア式」 (= DnMs) を用いる (ハンドブック §3 参照)。

相違点: SDU    *á*   *a*   *ä*   *å*   *æ*   *ȝ*  
 本書    *à*   *a*   *ä*   *å*   *æ*   *ʃ*

このほか, *stød* の記号は SDU では母音の後でも子音の後でも ['] であるが, 本書では母音の後の場合は [ˑ] を用いる。

⇒ は「…を参照せよ」。

以下, §1~4 でカナ転記方針・基準を示す。

表 1 デンマーク語 音声記号  
(改良ダニア式 (DnMs))

子音	両唇	唇歯	歯	歯茎 硬口蓋	硬口蓋	軟口蓋	口蓋垂	咽頭	声門
閉鎖音									
有気	p		t			k			
無気	b		d			g			
摩擦音									
無声		f	s	ʃ					h
有声		v			j		r		
側音			l						
鼻音	m		n			ŋ			
接近音			ð		ɹ	w		ɽ	

\* 閉鎖音は有気音, 無気音ともに無声音。側音, 鼻音, 接近音は有声音。

DnMs: p   t   k   b   d   g   ɹ   ɽ  
 IPA:   b<sup>h</sup>   d<sup>h</sup>   g<sup>h</sup>   ɸ   ɖ   ɡ   i   ɾ   p/ʌ

母 音	前 舌		中 舌	後 舌	
	非 円 唇	円 唇	非 円 唇	非 円 唇	円 唇
狭 口	i(:)	y(:)			u(:)
半 狭 口	e(:)	ø(:)	ə		o(:)
半 広 口	æ(:)	ö(:)			å(:)
広 口	á(:)	ö(:)			å(:)
超 広 口	a(:) ä		ɑ(:)		ɔ

\* [ə] は弱強勢音節にのみ現れる.

\* [ä] = (IPA 精密表記) [a<sub>ɹ</sub>].

\* [ɔ] は円唇性の弱い母音.

下の母音図表参照.

図 1 デンマーク語母音

(SDU: 90 の母音図を基に作成 (DnMs 表記))

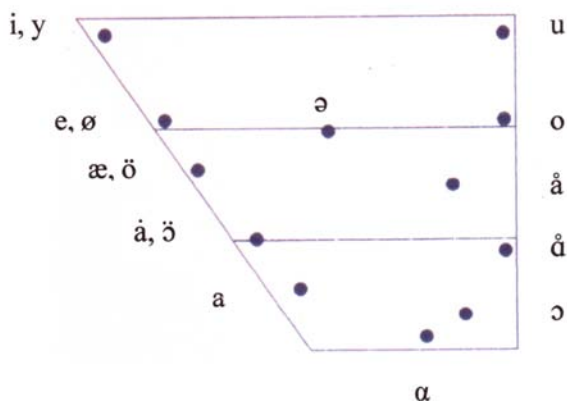
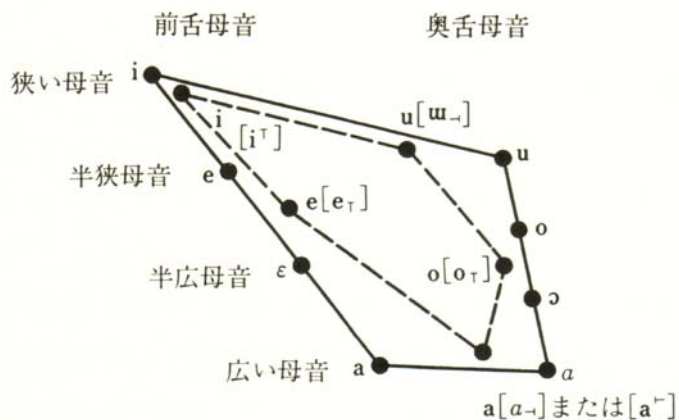


図 2 基本母音 (外側) と日本語母音 (内側の破線)

(国際交流基金: 26)



1. 母音

1.1. 単母音

音声記号	i	y	u
	e	ø	o
	æ	ə	ö
	â	ö	å
	ä		ɔ
	a	ɑ	

これらの母音を、母音図(前頁図1, 図2参照)やデンマーク語音聴取実験などを参考にして、以下のように、カナに対応させる。

表2 母音対応表

i	イ	y	ユ, ユ	u	ウ
e		ø	ウ	o	
æ		ö	エ	å	オ
ə	エ	ö	ア	ɑ	
â				ɔ <sup>1</sup>	
ä				ɔ <sup>2</sup>	ア
a	ア				
ɑ					

イ	i e
エ	æ å ö ə
ア	ä a ɑ ö ɔ <sup>2</sup>
オ	o å å ɔ <sup>1</sup>
ウ	u ø

- (1) [ə] (= 「エ」) に関しては、§ 2.1, 2.2 も見よ。
- (2) [ɔ] は強強勢位置に現われうる [ɔ] と弱強勢位置にしか現われない [ɔ] を区別する。前者を [ɔ<sup>1</sup>]、後者を [ɔ<sup>2</sup>] とする。弱強勢位置の [ɔ<sup>2</sup>] は綴り <-er, -re> (および外来語の <-or>) (/ər, rə/) の部分の音であるが、[ɔ<sup>1</sup>], [ɔ<sup>2</sup>] の両者は発音辞典を初め、多くの音韻論・音声学の文献で同一の記号で示されているが、Basbøll & Wagner (1986), Thorsen & Thorsen (1986) などでは、[ɔ<sup>1</sup>] を IPA [ʌ], [ɔ<sup>2</sup>] を IPA [ɐ] で示しており、両者が必ずしも同一の音ではないことがわかる。デ語の [ɔ] は円唇性が弱い音であるが、弱強勢位置に現われる場合はさらに円唇性が弱くなるように感じられる。聴取テストの結果を見ても、[ɔ<sup>2</sup>] はほとんどの場合「ア」と聴取された。( [ɔ<sup>1</sup>] も「ア」と聴取される場合もあった。) このような理由で、[ɔ<sup>2</sup>] は「ア」で転記する。

なお, [ɔ̃<sup>2</sup>] に並行して, 子音 [ɹ] は「ア」とする.

(3) stød は転記しない.

(4) 長母音および stød 付き(長)母音には音引きを加える.

## 1.2. 二重母音

æi	エイ	iw	イウ	yw	ユウ	aw	アウ
ɑi	アイ	ew	イウ	øw	ウウ	ow	オウ
ɔi	オイ	æw	エウ	öw	エウ	åw	オウ
(ui	ウイ)	äw	アウ	öw	アウ	ow/åw	オウ

\* SDU [ɑi] は [ɑi] とする (⇒ハンドブック § 5.1).

\* [w] は [ɑɹw] の連続にも現われる(これは三重母音と解釈されることもある).  
[ɑɹw] は「エアウ」とする.

このほか, [ii], [ei] 「イイ」も稀に現われる.

\* [ræi], [røi] については § 2.4 を見よ.

## 2. /ə/ およびその他の母音についての補足

### 2.1. /ə/: 先行の長母音に同化する場合

長母音後の /ə/ は先行の長母音と同一音質の短母音で表記されることがしばしばある. この場合には, そのまま先行の当該母音に対応のカナで表記する.

とくに, [ɑ:], [ɑ̃:] の後の /ə/ は SDU では常に各々 [ɑ], [ɑ̃] と表記されている. この場合は [ɑ], [ɑ̃] を各々「ア」, 「オ」とする. (該当部分に下線を施す. 以下, 同様.) (以下では, 強強勢(=第1強勢)をもつ部分のカナをゴシック体の文字で表記する(⇒ § 4.1).)

**Karen** ['kɑ:an] カーアン

**Hareskov** ['hɑ:ɑ,sgəw'] ハーアスコウ

**Årre** ['ɑ̃:ɑ̃] オーオ

**Aarestrup** ['ɑ̃:ɑ̃,sdrɑb] オーオストロブ

その他の(長)母音直後の /ə/ も SDU では先行の当該母音に同化された形で表記される場合が多いが, その場合も [ə] に変換せずにそのままの母音に対応のカナ表記をする.

**Slien** ['sli:in] スリーイン (“[sli:ən] スリーエン”ではなく)

**Peblingesøen** ['peblɛŋə,sø:øn] ピブリングスーウン (“[-,sø:ən] …スーエン”ではなく)

**Dueholm** ['du:u,həlm] ドゥーウホルム (“[du:ə-] ドゥーエ”ではなく)

- Truels** ['tru:uls] トルーウルス (“[tru:əls] トルーエルス”ではなく)  
**TruelSEN** ['tru:ulsn□] トルーウルスン (“[tru:əlsn□] トルーエルスン”ではなく)  
 (<[-sn□] については § 2.2.3 (3) 参照)  
**Troels** ['tro:øls] トローオルス (“[tro:əls] トローエルス”ではなく)  
**Snogebæk** ['sno:ø,bæg] スノーオベク (“[sno:ə-] スノーエ…”ではなく)  
**Aaen** ['å:ån] オーオン (“[å:ən] オーエン”ではなく)  
**Kongeaen** ['køŋə,å:ån] コングオーオン (“[køŋə,å:ən] コングオーエン”ではなく)

稀に次のように [ə] が用いられている場合がある。

**Due** ['du:ə] (cf. **Dueholm** ['du:u,hølm] (*sic*))

このような場合にも、同化形に変える。

**Due** ['du:ə] → ['du:u] ドウウ

**Tue** ['tu:ə] → ['tu:u] トウウ

**Wiehe** ['vi:ə] → ['vi:i] ヴィイ

**Annemarie** [anəmə'ri:ə] → [-'ri:i] アネマリイ

**Hundige** ['hun,di:ə] → [-,di:i] フンディイ

## 2.2. [ə] を吸収同化した音節的子音

### 2.2.1. 音節的子音を用いない場合

自鳴(sonorant)子音 [m, n, ŋ, l, ð, j, w] は隣接する [ə] を吸収同化して [m, n□, ŋ, l□, ð□, j□, w□] の音節的子音となることがある。

SDU では、たとえば **Auken** ['aw'gən] 対 **Bakken** ['bægn□], **Algade** ['al,gá:ðə] 対 **Bredgade** ['bræð,gá:ð□], **Bøgestrøm** ['bø:ʝə,sdrøm'] 対 **Agedrup** ['å:ʝ,dráb] のように、[ə] が子音に同化されない (非同化形) の表記の場合と、[ə] が子音に吸収同化された音節的子音 (同化形) で表記する場合の両者がある。また、たとえば **Arden** は ['ɑ:dñ□] と表記されているが、これを本書のカナ転記方針に従ってカナ表記をすると「アードン」となる。音節的 [n□] ではなく [ə]+[n] にすると、['ɑ:dən] となり、カナ表記は「アーデン」となる。この後者の方が現実の発音形に近い。

このような点を考慮して、本書では音節的子音は、下記 § 2.2.2 の 3 個の場合を除き、“[ə] (<e>)+子音” または “子音+[ə] (<e>)” の非同化形を用いる。

**Bakken** ['bægn□] → ['bægən] バゲン, cf. **Auken** ['aw'gən] (*sic*) アウゲン

**Bredgade** ['bræð,gá:ð□] → [-,gá:ðə] ゲーゼ, cf. **Gade** ['gá:ðə] (*sic*)

このほかに複雑な事例があるが、それはケースバイケースに処理する。たとえば

**Vallensbæk** ['val'□ns,bæg] → ['val'əns,bæg] ヴァレンスベク

## 2.2.2. 音節的子音を用いる場合

以下の3個の場合は音節的子音（同化形）を用いる。

(1) [i], (2) [w], (3) 姓を示す語の語末 **-sen** [-sn□]. (1), (2) は § 2.1 に関連する母音的子音である。

(1) [iə], [i] は次のようにカナ転記する。SDU では非同化形と同化形の両形が用いられているが、全て次のように音節的 [i] に統一する。ただし [i]+[ɔ<sup>2</sup>] は除く。これについては § 3.5 で述べる。

長母音の後：

\* [i]: (そのまま) [i] → イ

**Agedrup** [ˈɑːiːdrʌb] エーイドロブ

**Bagenkop** [ˈbɑːiːnˌkɔb] ベーインコブ

**Bregentved** [ˈbræːiːndˌveð] ブレーイントヴィズ

**Skagen** [ˈsgɑːiːn] スケーイン

\* [i:] → (単一の) [i] → イ

**Bregendahl** [ˈbræːiːnˌdɑːl] → [ˈbræːiːnˌdɑːl] ブレーインデール

\* [iə] → [i] → イ

**Albøge** [ˈalˌbøːiə] → [ˈalˌbøːi] アルブーイ

**Bøgelund** [ˈbøːiəˌlʌnˀ] → [ˈbøːiˌlʌnˀ] ブーイロン

**Bøgestrøm** [ˈbøːiəˌsdrømˀ] → [ˈbøːiˌsdrømˀ] ブーイストラム

**Ege** [ˈeːjə] → [ˈeːi] イーイ

**Skagerrak** [ˈsgɑːiəˌrɑg] → [ˈsgɑːiˌrɑg] スケーイラク

短母音の後：

\* [i:]: (そのまま) [i:] → イイ

**Ajes** [ˈɑjəs] → [ˈɑiːs] アイイス

**Bojesen** [ˈbojəsən] → [ˈboiːsn□] ボイイスン (sn□ については § 2.2.2.(3))

\* [iə] → [i:] → イイ

**Boje** [ˈbojə] → [ˈboiː] ボイイ

\* [ɪ:]: (そのまま) [ɪ:] → アイ

**Eremitagen** [e.ɪ.miˈtɑːfən] エアイミテーシェン

- \* [ɪ̯ə] → [ɪ̯] → アイ  
**Terje** ['tɑ:ɪ̯ə] → ['tɑ:ɪ̯] テアイ

[ɪ̯] を「イ」で転記すると、非音節的 [ɪ̯] (「イ」) とカナ表記が中和することになるが、これはやむを得ない。なお、音節的 [ɪ̯] は母音 [i] で表記されることもある。

(2) [wə], [w̥] は次のようカナ転記する。SDU では非同化形と同化形の両形が用いられているが、全て次のように音節的 [w̥] に統一する。[w]+[ɔ<sup>2</sup>] については § 3.5 参照。

長母音の後：

- \* [w̥]: (そのまま) [w̥] → ウ  
**Aagensen** ['ɑ:w̥nsn̩] オーウンسن ([sn̩] については § 2.2.2.(3))

- \* [ww̥] → (単一の) [w̥] → ウ  
**Borgen** ['bɑ:ww̥n] → ['bɑ:w̥n] ボーウン

- \* [wə] → [w̥] → ウ  
**Aage** ['ɑ:wə] → ['ɑ:w̥] オーウ  
**Borge** ['bɑ:wə] → ['bɑ:w̥] ボーウ

短母音の後：

- \* [ww̥]: (そのまま) [ww̥] → ウウ  
**Bogense** ['bɑww̥nsə] ボウウンセ  
**Kobberup** ['kɔww̥rɑb] コウウロブ

- \* [ɪw̥]: (そのまま) [ɪw̥] → アウ  
**Børgesen** ['bø:ɪw̥sn̩] バアウン ([sn̩] については § 2.2.2.(3))

- \* [ɪwə] → [ɪw̥] → アウ  
**Bjerge** ['bjɑ:ɪwə] → ['bjɑ:ɪw̥] ビエアウ  
**Byrge** ['by:ɪwə] → ['by:ɪw̥] ビュアウ  
**Børge** ['bø:ɪwə] → ['bø:ɪw̥] バアウ

[w̥] を「ウ」で転記すると、非音節的 [w̥] (「ウ」) とカナ表記が中和するこ



とになるが、これはやむを得ない。なお、音節的 [w] は母音 [u] で表記されることもある。

(3) [-sn□]:

<ə> が [n] に先行する場合、SDU では通常 [n□] で表記されるが、これは § 2.2.1 で述べたように [ən] とする。

しかしながら、**Andersen** ['ɑnɔsn□], **Carlsen** ['kɑ:lsn□], **Jensen** ['jænsn□], **Nielsen** ['nielsn□], **Olesen** ['o:ləsn□], **Petersen** ['pe:dɔsn□], **Svendsen** ['svændsn□] などの姓の末尾に現われる **-sen** (「(...)の息子」← søn ← 古ノルド語 sonr) は、SDU の明瞭形で [-sn□] の表記となっている。この型の姓はデンマーク語で非常に多数あることと、今回行った聴取テストのインフォーマントの発音形も **-sen** はすべて「スン」と聴取されていることを考慮して、この型の姓の末尾に現われる **-sen** [-sn□] は「スン」に転記する。

2.3. 短母音+無声の [ɾ, ɽ]

SDU の第 1 発音形(=明瞭形 *distinkthedsform*)では、“本来の”短母音の後の /r/ は、音節末または音節末無声子音の前では [ɾ, ɽ] で表記されている:(**Dania**) [ɑɾ, åɾ], その他の母音+[ɽ]). この無声の“r”が含まれた発音形は次のように変換する(⇒ハンドブック § 5.2).

Dania	DnMs
[ɑɾ] → [ɑ:]	→ [ɑ:]
[åɾ] → [å:]	→ [å:]
(その他の母音+)	[ɽ] → [ɾ]

例:(第 1 強勢音節中)

**Harte** ['hɑɾtə] → ['hɑ:də] ([t] → [d])

**Martin** ['mɑɾtin] → ['mɑ:tin]

**Horslunde** ['hɑɾslånə] → ['hå:s-]

**Thorsten** ['tåɾsdən] → ['tå:sdən]

**Birkerød** ['biɾgəɾøð'] → ['bi:ɾgə-]

**Kirsten** ['kiɾsdən] → ['ki:sdən]

**Gertrud** ['gɑɾtruð] → ['gɑ:ɾtruð]

**Herholt** ['håɾhɔl'd] → ['hå:r-]

(第 2 強勢音節中)

**Danmark** ['danmɑɾg] → ['danmɑ:g]

**Markvard** ['mɑɾkvɑɾd] → ['mɑ:kva:d] (第 2 の [ɑɾ])

弱強勢位置では [ɑ̯, ɑ̯̊] は用いられず、各々短音の [ɑ], [ɑ̊] で表記されている。

**Agnar** ['ɑw'nɑ], **Dagmar** ['dɑwmɑ]

**Haldor** ['haldɑ̊], **Igor** ['i:gɑ̊], **Viktor** ['vigtɑ̊]

注意：普通名詞では、<-ar, -or> に終わる (<r> の後に子音が後続しない)

1音節語が少数ある：**kar** ['kɑ̯], **par** ['pɑ̯], **var** [動・過去] ['vɑ̯], **for** [前] ['fɑ̯], **vor** ['vɑ̯]. これらの語の [ɑ̯], [ɑ̯̊] は各々短い [ɑ], [ɑ̊] (→ DnMs [ɑ], [ɑ̊]) となる、すなわち DnMs ['kɑ], ['pɑ], ['vɑ], ['fɑ], ['vɑ].

## 2.4. SDU [rœ̯] → DnMs [ræ:], [rö̯] → [rö:]

### (1) [rœ̯] → [ræ:]

SDU の [rœ̯] (DnMs [ræ̯]) は §1.2 の二重母音ではない。SDU の [rœ̯] (綴り字は <re>) は長母音 [rœ:] (DnMs [ræ:]) と交替する音声形である (SDU の第3形では [rœ:] で表記されている)。この [rœ̯] (DnMs [ræ̯]) は [ræ:] 「レー」で表記する (⇒ハンドブック §6.5)。

**Brede** ['bræ̯ðə] → ['bræ:ðə]

**Greve** ['græ̯və] → ['græ:və]

**Dresen** ['dræ̯'sn̩] → ['dræ:sn̩]

**Grete** ['græ̯də] → ['græ:də]

**Margrete** [mɑ'græ̯'də] → [mɑ'græ:də]

**Rehling** ['ræ̯leŋ] → ['ræ:leŋ]

### (2) [rö̯] → [rö:]

SDU の明瞭発音形で [rö̯] で表記されている場合が少数あるが、これは [rö:] に変える (⇒ハンドブック §6.6)。(第3形では [rö:] で表記されている。)

**Rø** ['rö̯] → ['rö:]

**Strø** ['sdrö̯] → ['sdrö:]

**Strødam** ['sdrö̯'dam] → ['sdrö:-]

cf. 明瞭形で

**Strøby** ['sdrö̯by] (sic)

**Strømø** ['sdrö̯mø] (sic)

**Skrøbelev** ['sgrö̯bəlɐw] → ['sgrö:bə-]

しかし、大多数の場合は **stød** を伴っても伴わなくても明瞭発音形で初めから [ö:], [ö:] で表記されている：**Frøs** ['frö:s], **Brørup** ['brö:råb], **Frøhlich** ['frö:lig], **Frørup** ['frö:råb], **Frøsig** ['frö:si], **Strøby** ['sdrö̯by], **Strømø** ['sdrö̯mø].

### 3. 子音

音声記号: p t k f s ʃ h

b d g v j r l m n ŋ ð ɹ w ɹ

#### 3.1. 対応表

表3 子音対応表

\* = ～行カナ; 例: パ\* = パ行カナ.

母音には [ə] も含まれる.

“[j]+母音, 子音+[j]+母音” についての詳細は表4参照.

表3 (1)

音声記号	音節頭		音節末
	子音の前	母音の前	
p	プ	パ*	
b	ブ	バ*	プ
sb		スパ*	スプ
t	ト	タ*	
ti, te		テイ	
tu		トウ	
ty		テュ	
d	ド	ダ*	ト
di, de		デイ	
du		ドウ	
dy		デュ	
sd		スタ*	スト
-ds(-)			ツ, トス
-dj(-)		チャ*	チュ
k	ク	カ*	
g	グ	ガ*	ク
sg		スカ*	スク

表 3 (2)

音声記号	音節頭		音節末
	子音の前	母音の前	
f	フ	ファ*	フ
fdə			フテ
v	ヴ	ヴァ*	ヴ
s	ス	サ*	ス
si/se		スイ	
sy		スユ	
ʃ	(シュ)	シャ*	シュ
ʃi		シ	
-dʃ(-)		チャ*	チ
h		ハ*	
j		ヤ*, ヤ*	
ɪ			イ
l		ラ*	ル
r		ラ*	
ɹ			ア
m		マ*	ム
n		ナ*	ン
ŋ			ング, ン
ð		ザ*	ズ
w		ウア*	ウ

[i], [w] については § 2.2.2. (1), (2) および § 3.5 参照.

[y] → [f] (⇒ § 3.7)

表4 音節頭 [j]+母音, 子音+[j]+母音

		p-/sb-	b-	t-/sd-	d-	k-/sg-	g-
ji/e	イ	ピ <sup>o</sup>	ビ	チ	ジ	キ	ギ
jæ/â/ö	イェ	ピエ <sup>1</sup>	ビエ	チェ	ジエ	キエ	ギエ
jä/a/å/ö	ヤ	ピヤ	ビヤ	チャ <sup>2</sup>	ジャ	キヤ	ギヤ
jy	ユ, ユ	ピユ	ビユ	チュ	デュ	キュ	ギユ
jø	ユ	ピユ	ビユ	チュ	デュ	キュ	ギユ
ju	ユ	ピユ	ビユ	チュ	デュ	キュ	ギユ
jo/â/å/ö <sup>1</sup>	ヨ	ピヨ	ビヨ	チョ	ジョ	キヨ <sup>3</sup>	ギヨ
jø	イェ	ピエ	ビエ	チェ	ジエ	キエ	ギエ
jø <sup>2</sup>	ヤ	ピヤ	ビヤ	チャ	ジャ	キヤ	ギヤ

		f-	v-	l-	m-	n-
ji/e	イ	フィ	ヴィ	リ	ミ	ニ
jæ/â/ö	イェ	フィエ	ヴィエ	リエ	ミエ	ニエ
jä/a/å/ö	ヤ	フィヤ	ヴィヤ	リヤ	ミヤ	ニヤ
jy	ユ, ユ	フユ	ヴユ	リュ	ミュ	ニユ
jø	ユ	フユ	ヴユ	リュ	ミュ	ニユ
ju	ユ	フユ	ヴユ	リュ	ミュ	ニユ
jo/â/å/ö <sup>1</sup>	ヨ	フィヨ	ヴィヨ	リヨ	ミヨ	ニヨ
jø	イェ	フィエ	ヴィエ	リエ	ミエ	ニエ
jø <sup>2</sup>	ヤ	フヤ	ヴヤ	リヤ	ミヤ	ニヤ

1: [sbj-]: **Spjellerup** [ˈsbælˈə,råb] スピエレロフ

2: [tj-]: **Tjørring** [ˈtjöö,ɾeŋ] チャアイング

[sdj-]: **Christian** [ˈkræsdjan] クレスチャン

3: [sqj-]: **Skjold** [ˈsgjölˀ] スキヨル

### 3.2. 子音の後の stød

子音の後の stød は転記(表記)しない。それゆえ、当該子音は stød の後の母音の音節頭子音とすることがある (⇒ §3.3)。

**Almindingen** [ˈal,mɛnˈɛŋɛn] アルミンゲン

cf. **Almind** [ˈal,mɛnˀ] アルミン ([n] は音節末/語末)

**Svaneke** [ˈsvanˀəgə] スヴァネゲ

**Svendinge** [ˈsvɛnɛŋə] スヴィニング

## 3.3. [ə, ɔ²] の前の子音

[ə, ɔ²] の前の子音は直前の 1 個のみ [ə, ɔ²] の音節の頭子音とする (⇒ §3.2).  
ただし, §3.4 (5) は除く.

**Alsønderup** [al'søn'ɔ,råb] アルスナロプ (stød あり)

cf. **Sønderjylland** ['sønɔjy,lan'] スナユラン (stød なし)

**Møller** ['møl'ɔ] ムラ (stød あり)

cf. **Femmøller** ['fæm,mølbɔ] フェムムラ (stød なし)

[ɹ] は常に音節末子音なので (⇒ §3.10), 後続の [ə, ɔ²] の音節頭子音とはならない:

**Jørgensen** ['jör'ɔnsnɔ] ヤアアンスン

## 3.4. 閉鎖音 [p, t, k] 対 [b, d, g]: (⇒ §3.1)

(1) デ語の [p, t, k] (IPA [bʰ, dʰ, ɡʰ]) は音節頭第 1 子音としてのみ現われ, その他の場合には [b, d, g] (IPA [b, d, ɡ]) となる. そして, [p, t, k] は主として強勢のある音節の第 1 頭子音として現われる. [b, d, g] も無声で, むしろこちらの方が日本語の「バ, タ, カ」の子音に近いかもしれない. しかしながら, もし [b, d, g] を「バ, タ, カ」の子音に転記すると, 音韻的な /p, t, k/ 対 /b, d, g/ が区別できなくなる. それゆえ, /p, t, k/ 対 /b, d, g/ の音韻的対立を「パ\*, タ\*, カ\*」対「バ\*, ダ\*, ガ\*」とするのが適当であり, 語頭(または形態素頭の)の場合には, 聴取テストの結果もこのカナの区別を反映している. これらの対立は綴り字では <p, t, k> で <b, d, g> で表される.

(2) 母音間の弱強勢音節頭の [b, d, g] は半有声化されるのがふつうであるが, 無声のままのこともある. それゆえ, 「パ\*, タ\*, カ\*」にするか「バ\*, ダ\*, ガ\*」にするか迷う点があるが, 音韻的・音声的に見て, 「パ\*, タ\*, カ\*」と「バ\*, ダ\*, ガ\*」が対立する場合もある.

**Skørping** ['sgøɾpeŋ] – **Stepping** ['sdæbeŋ] (スカアピング – ステビング)

**Bertil** ['bærtil] – **Bertel** ['bærdəl] (ベアテイル – ベアデル)

**Brigitta** [bri'gita] – **Brigitte** [bri'gida] (ブリギタ – ブリギテ)

**Åker** ['ɔkɔ] – **Agger** ['ɑgɔ], **Agge** ['ɑgə] (オカ – アガ, アゲ)

**Blanca** ['blɔŋka] – **Katinka** [ka'teŋga] (ブランカ – カティンガ)

したがって, [b, d, g] は「バ\*, ダ\*, ガ\*」にする.

なお, 母音間の [b, d, g] は綴り字では <b, d, g> も <p, t, k> もあることに注意. 子音と母音の間の [b, d, g] は, 「バ\*, ダ\*, ガ\*」にするが, [-sbə/ɔ, -sdə/ɔ, -sgə/ɔ]

は「スペ/パ, ステ/タ, スケ/カ」とする (⇒ § 3.4 (5)). (なお, [s] ではないが, [-fdə/ɔ] は「フテ/タ」とする.)

(3) 語末・音節末の [b, d, g] は無声で, これは間違いなく日本語の「パ\*, タ\*, カ\*」の響きをもち, 聴取テストにもこの事実が反映されている.

(4) 音節頭で [s] の後では [b, d, g] となる ([p, t, k] は現われない). それゆえ, § 3.1 の対応規則によれば [sb, sd, sg] は「スバ\*, スダ\*, スガ\*」ということになる. しかし, 閉鎖音に限らず, [s] の後の有声子音は無声化される: [sv] → [sy], [sl] → [sʎ], [sm] → [sm̥], [sn] → [sn̥]. [s] の後の閉鎖音は当然無声であり, 呼気音 [ʰ] を伴わないので, [b, d, g] で表記されるが, この音環境の [b, d, g] は日本語の「バ\*, ダ\*, ガ\*」というより「パ\*, タ\*, カ\*」の響きとなる. 上記のように, 音節末の [b, d, g] は「パ\*, タ\*, カ\*」に転記する. それに並行して音節末の [sb, sd, sg] も「スプ, スト, スク」とする.

(5) [ə, ɔ<sup>2</sup>] の前の [sb, sd, sg] すなわち [-sbə/ɔ<sup>2</sup>, -sdə/ɔ<sup>2</sup>, -sgə/ɔ<sup>2</sup>] は音韻的には [s] と [b, d, g] の間に音節境界があると考えるのがふつうである ([s] の後に閉鎖音以外の子音が続く場合も同様である (⇒ § 3.2)). しかし音声的には微妙で, [s] と後続子音の間に境界があるように発音される場合の方がふつうであろうが, [s] が後続子音と同じ音節に属するように発音される場合もある. いずれにせよ, この場合の [b, d, g] は「パ\*, タ\*, カ\*」のように響く. それゆえ, 本書では [sb, sd, sg]+[ə/ɔ<sup>2</sup>] は「スペ/パ, ステ/タ, スケ/カ」に転記する (⇒ § 3.4 (4)).

表 5 [s]+子音

(a) 音節頭	(b) 音節末	(c) [ə], [ɔ <sup>2</sup> ] の前
sb- <sp> スパ*	-sb スプ	-sb スペ, スパ
sd- <st> スタ*	-sd スト	-sd ステ, スタ
sg- <sk> スカ*	-sg スク	-sg スケ, スカ
sbl- <spl> スプラ*		
sbr- <spr> スプラ*		
sdj- <stj> スチャ*		
sdr- <str> ストラ*		
sgj- <skj> スキヤ*		
sgr- <skr> スクラ*		
sgv- <skv> スクヴァ*		

## (6) [ds]:

[ds] は [d] と [s] の間に音節の切れ目がある場合とない場合がある。音節の切れ目があれば、「トス\*」、なければ「ツ\*、ツ」。

## 3.5. [ɔ²] の前の [i], [w]:

(1) 長母音(前舌長母音)+[i] の後に [ɔ²] が続く場合には, [i] は次音節頭子音とし(⇒§3.3), [j]に変換し, [jɔ²] は「ヤ」とする。一方, 短母音+[iɔ²] は [i] と [ɔ²] の間に音節の切れ目があるものとし, 「イア」とする。

[jɔ²] → ヤ:

**Jæger** ['jæ:jɔ] イエーヤ

**Bager** ['bå:iɔ] → ['bå:jɔ] ベーヤ

[i]+[ɔ²] → イア:

**Krøyer** ['krɔj'ɔ] クロイア

**Kaja** ['ka:jɔ] カイア

(2) 長母音+[w] の後に [ɔ²] が続く場合には, [w] は次音節頭子音とし(⇒§3.3), [wɔ²] は「ワ」とする。一方, 短母音+[wɔ²] は [w] と [ɔ²] の間に音節の切れ目があるものとし, 「ウア」とする。

[wɔ²] → ワ:

**Borgergade** ['bå:wɔ:gá:ðɔ] ボーワゲーゼ

**Svogerslev** ['svå:wɔ:slew] スヴオーワスリウ

[w]+[ɔ²] → ウア:

**Bjæverskov** ['bjæw'ɔ:sgɔw'] ビエウアスコウ

**Dalbyover** [dalby'ɔwɔ] ダルビウオウア

**Hvidovre** ['við,ɔw:ɔ] ヴイズオウア

注意: **Hvidovre** ['við,ɔw:ɔ] ヴイズオウア, **Havrebjerg** ['haw:ɔ,bjær'] ハウアビエアなどの長い [w:] は [w] と [ɔ] の間の [r] が脱落するときに代替的に長くなるものであるが, カナの「ウ」にはすでにこの長さが含まれてしまうので, 「ウ」のままとする。すなわち [w], [w:] の両者とも「ウ」。なお, **Højreby** ['hɔj'rɔ,by:] ホイラビューー, **Dejret** ['dɔj'rɔd] ダイレットなどでは [r] は標準発音形では表記されているので, 当然ながらそのまま表記する(第3形では [r] が脱落し, [i] が [i:] となる; ハンドブック §8.3 参照)。

## 3.6. 長母音後の音節末 [-v/w] (+[ə, ɔ²] および [-(ɹ)və/- (ɹ)wə]

長母音後の音節末 [-v], [-(ɹ)və] の [v] は [-w] の発音形もあるが, この [w] は



転記の対象とはせず, [v] のみを用いる.

**Give** [ˈgi:və] ギーヴエ  
**Giver** [ˈgi:və] ギーヴア  
**Graves** [ˈgrɑ:vəs] グラーヴェス  
**Græshave** [ˈgræs,hå:və] グラスヘーヴエ  
**Gyldenløve** [ˈgylˀən,lø:və] ギュレンルーヴエ  
**Iversen** [ˈi:vəsən] イーヴアセン

### 3.7. [ɣ] → [f]

**Ifversen** [ˈifvəsən] → [ˈiffəsən] イフフアセン  
**Josephsen** [ˈjo:sæpsən] → [ˈjo:sæfsən] ヨーセフセン

### 3.8. [ŋ]

- (1) [k, g] の前の [ŋ] → ン ;
- (2) フランス語借用語系の [αŋ] → アン, [ɔŋ] → オン ;
- (3) その他の場合: [ŋ] → ング, [ŋə] → ング, [ŋɔ] → ング.

### 3.9. [ɹ]

[ɹ] 「ア」は常に音節末子音とする.

### 3.10. 促音

促音は用いない.

**Kastrup** [ˈka,sdråb] カストロプ (「ロップ」ではなく)  
**Tot** [ˈtɔd] トト (「トット」ではなく)  
**Uth** [ˈud] ウト (「ウット」ではなく)  
**Dorrit** [ˈdo:rid] ドーリト (「リット」ではなく)  
**Otto** [ˈɔto] オト (「オット」ではなく)  
**Frederik** [ˈfræð,ræg] フレズレク (「レック」ではなく)  
**Humblebæk** [ˈhåmlə,bæg] ホムレベク (「ベック」ではなく)  
**Vendsyssel** [ˈvæn,sysəl] ヴェンスユセル (「スユッセル」ではなく)  
**Hassing** [ˈhasen] ハスィング (「ハッスィング」ではなく)

## 4. 強勢

### 4.1. 強勢の表記

強勢は音声記号なのでこれを表記することは, カナ表記に限らず, 通常の綴り字ではどの言語でもできないことである. 本書のカナ表記では強強勢 (= 第1強

勢) をもつ部分のカナを便宜的にゴシック体で表記する。

**Bo** ['bo:] ボー, **Lø** ['lø:] ルー, **Glob** ['glo:b] グローブ,  
**Muus** ['mu:s] ムース, **Karl** ['kɑ:l] カール, **Knud** ['knu:ð] クヌーズ,  
**Ann** ['an] アン, **Berg** ['bɑ:r'w] ベアウ, **Kaj** ['kɑ:j] カイ, **Bente** ['bændə] ベンデ,  
**Lise** ['li:sə] リーセ, **Anders** ['ɑ:nəs] アナス, **Inger** ['eŋə] イング,  
**Amo** ['ɑ:mo] エーモ, **Jakob** ['jɑ:kɔb] ヤコブ, **Ishøj** ['is,hɔj] イスホイ,  
**Adelgade** ['ɑ:ðəl,gɑ:ðə] エーゼルゲーゼ, **Adslev** ['ɑ:slew] アスリウ,  
**Marie** [mɑ'ri:i] マリーイ, **Susanne** [su'sanə] スサネ,  
**Kalundborg** [kalån'bå:] カロンボー, **Aggersvold** [ɑgəs'vɔl'] アガスヴォル,  
**Gribskov** ['gri:b'sgɔw] グリプスコウ, **DSB** [deəs'be:] ディエスビー,  
**Bornholm** [bɑ:n'hɔl'm] ボーンホルム,  
**H.C. Andersen** ['hɑ:'se:'ɑnɔsn] ホー・スィー・アナスン,  
**Assistens Kirkegård** [asi'sdæn's'ki.rgə,gå:] アシステンスキアゲゴー,  
**Hauser Plads** ['hɑwsə'plas] ハウサプラス

#### 4.2. シュワー(およびその他の母音)を含む音節の第2強勢の省略

SDUによれば、音声的リズムの関係で、(強強勢音節+)弱強勢音節後の [ə] および [ɔ<sup>2</sup>] (を含む音節)が第2強勢をとることがあるとされるが、この強勢は省略する。

**Adamsen** ['ɑ:dɑm,sn] → ['ɑ:dɑmsn], **Andersen** ['ɑnɔ,sn] → ['ɑnɔsn]  
**Andreasen** [an'dræ'a,sn] → [an'dræ:asn],  
**Christensen** ['kræsdən,sn] → ['kræsdənsn]  
**Allese** ['aləsə] → ['aləsə], **Engelka** ['æŋ'əl,kə] → ['æŋ'əl,kə]  
**Avnede** ['ɑwnəð,ə] → ['ɑwnəðə], **Egede** ['e:ɰ,ə] → ['e:ɰə]  
**Allinge** ['alɛŋ,ə] → ['alɛŋə], **Ellinge** ['æɛŋ,ə] → ['æɛŋə]  
**Herringe** ['hɑ:ɛŋ,ə] → ['hɑ:ɛŋə], **Daniel** ['dɑ:ni,əl] → ['dɑ:niəl]  
**Adeler** ['ɑ:ðə,lə] → ['ɑ:ðələ], **Fibiger** ['fi:bi,gə] → ['fi:bigə]

注意 : **Clausen** ['klɑwsn], **Finsen** ['fen'sn], **Hansen** ['han'sn], **Jensen** ['jænsn],  
**Knudsen** ['knusn], **Svendsen** ['svænsn] などのように、強強勢音節直後の音節的 [n] の音節にふつうは第2強勢が置かれない。しかし、**Albrechtsen** [al'brægd,sn] のように、強強勢音節直後の [n] の音節に第2強勢が置かれている場合が稀にあるが、この第2強勢も省略する : → [al'brægdnsn].)

-e [ə], -er [ɔ<sup>2</sup>] のほか、次のような、弱強勢音節語の [-ɔ], [-a], [-o] などの第2強勢も省略する。

[-,sɔn] → [-sɔn]:

**Anderson** [ˈʌndɔːsɔn] → [ˈʌndɔsɔn] (cf. **Andersen** [ˈʌndɔːsn̩] → [ˈʌndɔsn̩])

**Eriksson** [ˈeːræɡˌsɔn] → [ˈeːræɡsɔn] (cf. **Eriksen** [ˈeːræɡˌsn̩] → [ˈeːræɡsn̩])

**Gunnarson** [ˈɡʌnɑːsɔn] → [ˈɡʌnɑsɔn] (cf. **Gunnarsen** [ˈɡʌnˈɔːsn̩] → [ˈɡʌnˈɔsn̩])

**Ferguson** [ˈfæːrɡʊˌsɔn] → [ˈfæːrɡʊsɔn]

注意 : **Bengtson** [ˈbæŋdˌsɔn], **Benzon** [ˈbænzɔn], **Carlson** [ˈkɑːlsɔn] のように、強強勢音節直後の音節に第2強勢が付されているが、これも省略する : → [ˈbæŋdsɔn], [ˈbænsɔn], [ˈkɑːlsɔn]. (cf. **Achton** [ˈʌɡtɔn], **Anton** [ˈʌntɔn], **Aron** [ˈɑːrɔn], )

[-,a] → [-a]:

**Angelika** [ɑŋˈɡeːliˌka] → [ɑŋˈɡeːlika], **Claudia** [ˈklɑwˈdiˌa] → [ˈklawˈdia]

**Dalila** [ˈdɑːliˌla] → [ˈdɑːlila], **Erika** [ˈeːriˌka] → [ˈeːrika]

**Eufemia** [œwˈfeːmiˌa] → [œwˈfeːmia], **Eulalia** [œwˈlɑːliˌa] → [œwˈlɑːlia]

**Femina** [ˈfeːmiˌna] → [ˈfeːmina], **Flora Danica** [ˌfloːraˈdɑːniˌka] → [ˌfloːraˈdɑːnika]

**Adrian** [ˈɑːdriˌan] → [ˈɑːdrian], **Fabian** [ˈfɑːbiˌan] → [ˈfɑːbian]

**Florian** [ˈfloːriˌan] → [ˈfloːrian] (cf. **Anna** [ˈana], **Dina** [ˈdiːna])

[-,o] → [-o]:

**Angelo** [ˈɑŋˌʃɔˌlo] → [ˈɑŋʃɔlo], **Figaro** [ˈfigɑˌro] → [ˈfigaro]

(cf. **Amo** [ˈɑːmo], **Otto** [ˈɔto])

[-,u] → [-u]:

**Cornelius** [kɑːneːliˌus] → [kɑːneːlius], **Emilius** [eːmiˌliˌus] → [eːmiːlius]

**Corneliussen** [kɑːneːliˌusn̩] → [kɑːneːliusn̩]

[-,i] → [-i]:

**Emily** [ˈæmiˌli] → [ˈæmili]

(cf. **Benny** [ˈbæni], **Billy** [ˈbili], **Alvin** [ˈalvin], **Amdi** [ˈamdi])

## 注

- 1 本章は p. 2 の図 2 を別のものと差し替えた点を除けば、間瀬英夫・新谷俊裕『デンマーク語音のカナ転記方法の研究 — デンマーク語の固有名詞のカナ表記方法を視野に入れて —』, 大阪外国語大学学術研究双書 34. 大阪外国語大学. 2006 年の pp. 1 – 24 の転写である.

参 考 文 献

- Basbøll, Hans & Johannes Wagner. 1985. *Kontrastive Phonologie des Deutschen und Dänischen. Segmentale Wortphonologie und -phonetik*. Tübingen: Max Niemeyer Verlag.
- Becker-Christensen, Christian. 1988. *Bogstav og Lyd. Dansk retskrivning og rigsmålsudtale*. Bind 1. København: Gyldendal.
- Brink, Lars & Jørgen Lund. 1975. *Dansk rigsmål. Lydudviklingen siden 1840 med særligt henblik på sociolekterne i København*. København: Gyldendal.
- Grønnum, Nina. 1998 (2002<sup>2</sup>). *Fonetik og Fonologi Almen og Dansk*. København: Akademisk Forlag.
- Hald, Kristian. 1975. *Danske stednavne med udtaleangivelse*. 2. udg. København: Gyldendal.
- Thorsen, Nina & Oluf Thorsen. 1986. *Fonetik for sprogstuderende*. 3. reviderede udgave, 8. oplag. København: Københavns Universitet.
- 国際交流基金. 1989.『発音 改訂版』(教師用日本語教育ハンドブック⑥). 東京 : 凡人社.
- 間瀬英夫. 2005. 『デンマーク語学ハンドブック』(世界を学ぶオリジナル語学教材開発プロジェクト). 大阪 : 大阪外国語大学.
- 発音辞典 :
- Brink, Lars et al. 1991. *Den Store Danske Udtaleordbog*. København: Munksgaard.
- Hansen, Peter Molbæk. 1990. *Udtaleordbog (= Dansk udtale)*. København: Gyldendal.